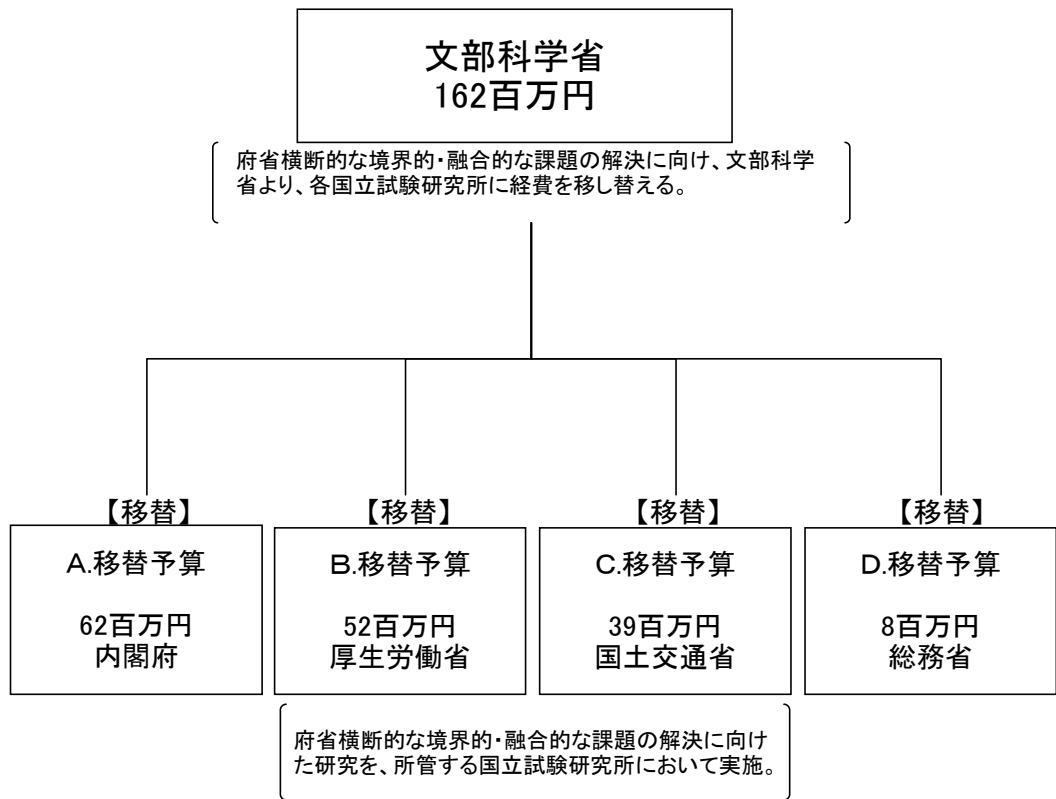


平成24年度行政事業レビューシート (文部科学省)

事業名	社会システム改革と研究開発の一体的推進事業		担当部局庁	科学技術・学術政策局		作成責任者		
事業開始・終了(予定)年度	平成25年度		担当課室	科学技術・学術戦略官付(調整・システム改革担当)		科学技術・学術戦略官(調査・評価担当) (調整・システム改革担当) 木村 賢二		
会計区分	一般会計		施策名	VII-3. 科学技術システム改革の先導				
根拠法令(具体的な条項も記載)	文部科学省設置法第4条46項		関係する計画、通知等	平成25年度の科学技術戦略推進費の概算要求方針(平成24年9月6日総合科学技術会議決定)				
事業の目的(目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	府省横断的な境界的・融合的な課題の解決に向け、科学技術に関する関係行政機関の事務の調整を実施している文部科学省において経費を一括計上し、各国立試験研究所に経費を移し替えることで、研究開発と社会システムの転換との一体的な推進を図り、課題解決につなげる。							
事業概要(5行程度以内。別添可)	科学技術戦略推進費に関する平成24年度行政事業レビュー公開プロセスの結果等を踏まえ、平成24年度まで科学技術戦略推進費で実施していた継続課題については、文部科学省所管の目定事業として実施することとなった。社会システム改革と研究開発の一体的推進事業は、これら継続課題の実施機関のうち、国立試験研究所について、文部科学省より移替えを行うもの。							
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託・請負 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> 交付 <input type="checkbox"/> 貸付 <input checked="" type="checkbox"/> その他							
予算額・執行額(単位:百万円)	予算の状況	当初予算	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度要求	
		補正予算						
		繰越し等						
		計					162	
	執行額						162	
	執行率(%)							
成果目標及び成果実績(アウトカム)	成果指標			単位	21年度	22年度	23年度	目標値(年度)
	成果実績	-						-
	達成度	%						
活動指標及び活動実績(アウトプット)	活動指標			単位	21年度	22年度	23年度	24年度活動見込
	実施プロジェクト数	活動実績(当初見込み)	プロジェクト数					※25年度の活動見込である (10)
単位当たりコスト	16.2(百万円/機関数)		算出根拠	単位あたりコスト=執行額(百万円)/実施機関数(機関) 16.2=162/10				
平成24・25年度予算内訳	費目	24年度当初予算	25年度要求	主な増減理由				
	非常勤職員手当	-	30百万円	新規事業の立ち上げ				
	諸謝金	-	1百万円					
	職員旅費	-	13百万円					
	委員等旅費	-	6百万円					
	外国人招へい旅費	-	1百万円					
	試験研究費	-	111百万円					
	招へい外国人滞在費	-	0.3百万円					
計	-	162百万円						

事業所管部局による点検			
	評価	項目	評価に関する説明
目的・予算の状況	○	広く国民のニーズがあり、優先度が高い事業であるか。	<ul style="list-style-type: none"> ・本事業で実施する課題は、科学技術に係る施策の中でも、総合科学技術会議が各府省の施策を俯瞰し、それを踏まえて立案する政策を実施するために必要であるとされたものであり、優先度が高い。 ・また、課題実施にあたり、国立試験研究所の研究ポテンシャルを最大限に活用する必要があり、国で実施すべき事業といえる。
	○	国が実施すべき事業であるか。地方自治体、民間等に委ねるべき事業となっていないか。	
	—	不用率が大きい場合は、その理由を把握しているか。	
資金の流れ、費目・使途	—	支出先の選定は妥当か。競争性が確保されているか。	資金の妥当性については、事前に年度計画に対応した経費の積算を提出させ、精査する。
	—	単位あたりコストの削減に努めているか。その水準は妥当か。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	—	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	
活動実績、成果実績	○	他の手段と比較して実効性の高い手段となっているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・本事業は、総合科学技術会議が各府省の施策を俯瞰し策定した実施方針において定められた目的・達成目標・実施体制等に基づき、課題を実施する。 ・また、各課題については、PD・PO制度を設けて管理するとともに、評価制度を設けており、達成目標に向けた取組がなされているか確認する。
	○	適切な成果目標を立て、その達成度は着実に向上しているか。	
	—	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	
	—	類似の事業があるか。その場合、他部局・他府省等と適切な役割分担となっているか。	
	—	※類似事業名とその所管部局・府省名	
—	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。		
点検結果	本事業は、科学技術戦略推進費に関する平成24年度文部科学省行政事業レビュー公開プロセスの指摘等を踏まえ、継続課題について各府省において継続性、効率的・効果的な運用が出来るよう、継続課題の実施機関のうち国立試験研究所について、科学技術に関する関係行政機関の事務の調整を実施している文部科学省において経費を一括計上し、経費を移し替えるため創設する。		
予算監視・効率化チームの所見			
本事業は、定性的な内容ではあるが成果目標が立てられ、事業効果についても適切に検討されており、広く国民のニーズに応える事業であると考えられることから、当省の事業として実施することが必要と認められる。			
上記の予算監視・効率化チームの所見を踏まえた改善点(概算要求における反映状況等)			
補記 (過去に事業仕分け・提言型政策仕分け・公開プロセス等の対象となっている場合はその結果も記載)			
○平成25年度の科学技術戦略推進費の概算要求方針(平成24年9月6日総合科学技術会議決定) http://www8.cao.go.jp/cstp/budget/25suishinhi-gyhousein.pdf			
関連する過去のレビューシートの事業番号			
平成22年行政事業レビュー	—	平成23年行政事業レビュー	—

※当該資金の流れは、予算積算上において想定される資金の流れを記載したものであり、実際の資金の流れとは異なる可能性がある。



資金の流れ
(資金の受け取り先が何を
行っているか
について補足
する) (単
位: 百万円)

※表示単位未満四捨五入の関係で積み上げと合計は一致しない。

費目・使途
 (「資金の流れ」
 においてブロック
 ごとに最大の
 金額が支出され
 ている者につい
 て記載する。費
 目と使途の双方
 で実情が分かる
 ように記載)

A. 内閣府			C. 国土交通省		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
試験研究費	試験研究委託費	56	試験研究費	試験研究費	34
その他	職員旅費、諸謝金、委員等旅費	6	職員旅費	職員旅費	4
			その他	外国人招へい旅費、委員等旅費、招へい外国人滞在費	1
計		62	計		39
B. 厚生労働省			D. 総務省		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
非常勤職員手当	非常勤職員手当	30	その他	試験研究費、職員旅費	8
試験研究費	試験研究費	12			
委員等旅費	委員等旅費	5			
その他	職員旅費、諸謝金	5			
計		52	計		8
C.			G.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0
D.			H.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0